



# 日野学園だより

41

品川区立小中一貫校 日野学園

校長 青木 経

ホームページアドレス <http://www1.cts.ne.jp/~hinogaku/>

平成21年11月4日

## 全校体制による家庭学習ルールづくり

校長 青木 経

10月31日(土)に行われました文化祭(5年生~9年生)には多数のご来校を賜り誠にありがとうございました。9年生を中心にインフルエンザが猛威をふるい欠席者が多数出るクラスもありましたが、この時期を逃しては中止にせざるをえないと判断し、実施いたしました。児童生徒一人ひとりが全力をかけて良いクラスを創るためにあるいはそのきっかけとなる行事ではありますが、まさにクラスの全員が一体となった姿に圧倒され、感動したのは私ばかりではなかったと思います。どのクラスもこの合唱にける思いが歌声となって広い体育館にこだましましたが、特に9年生のどのような困難な状況であっても決してへこたれない強い意志で挑戦する姿は、下級生への最高のお手本となってくれました。

10月26日(月)から一足先に開催されていまして展示発表会では、1年生から9年生までの作品が4階と6階フロアを活用して展示されました。普段の授業の成果が学年を追って見学できる今回の内容は、改めて9年間を通して義務教育活動を推進する本校の姿をご理解いただける良い機会になったと思います。特に6階のフロアの図工・美術の作品や華道からは、子どもたちの豊かな感性が見事に表現され、日常生活から多くのことを学び取り、日野学園の文化を築き上げる原動力になっていると感じました。

さて、先月の学校だよりでもお知らせしましたように11月2日(月)、学力向上に向けた学年での取り組みと、家庭学習を定着させるための具体的な内容を各学年より一斉にお知らせいたしました。これは本校の児童・生徒の実態として、学校における学習に対する関心・意欲は非常に高いにも拘わらず、学力に結びついていないことや家庭学習の時間が極端に短いために学校の学習が定着しない現状を打破する目的です。

学年だよりの内容は全て共通していますが、学校のホームページで公開しておりますので、各学年の内容を比較しながらご家庭においても先を見通した取り組みができるよう是非ご覧ください。

また、1年生から4年生までは「家庭学習の手引き」を作成し配布いたしました。すでに市民科の時間を使用して子どもたちへは説明しましたが、内容は「宿題の前に」「勉強時間」「宿題が終わったら」の3項目からなり、全てのご家庭で徹底していただくことが必要です。5年生から9年生に関しては内容の最終的チェックの段階まできており、今週中にはお示しいたします。

本校が創設され4年目に入り、9年の義務教育を一貫しておこなう教育課程の創設期から、具体的な成果が求められる内容の充実期へと移行しつつあります。そのための施策として具体的な手立てを保護者の皆様には提示しておりますが、今回の全校体制の指導については、これからの日野学園が名実ともに成長する大きな布石と捉えております。学力を着実に身に付けさせるためには、学校教育と家庭教育が一体となる必要があります。特に品川区が目指す一貫教育の最終的な「自学自習」の態度育成のためには、1年生からの継続的な指導が必要とされます。今までの学年体制から脱却し全校体制で子どもを育てるためには、ひとつの学年だけが良くても意味がありません。一貫校ならではの体制を生かし、全ての子どもたちが意欲を持って学習に取り組み「学ぶ力」を備えるために学校は全力を尽くします。現状に満足することなく、伸ばせる力をさらに伸ばすためにも保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

# 響き合う

## 日野学園 文化祭

文化祭実行委員会が中心となって準備してきた平成 21 年度文化祭が、10 月 31 日の合唱コンクール・舞台発表で幕を閉じました。「日野学」UNP SMILE の嵐をまき起こせ！！」をスローガンに、クラス・学年・全校が一丸となって取り組みました。

1 年生から 9 年生までが共に生活する日野学園では、5 年生～9 年生が主体の今回の「文化祭」と 1 年生～4 年生が主体の「学習成果発表会」に分けて実施しています。どちらも日ごろの学習成果を総合的に発表する場として、児童生徒一人一人にめあてを持って取り組ませています。その一人一人の力が、互いに協和音となって響きあったとき、子どもたちは、言葉にしがたい感動を味わいます。その心地よさは、次の意欲となってがんばる力をわかあがらせてくれます。また、伝えたい「思い」をはっきりもって表現すると、見ている・聞いている相手にも感動となって伝わります。1 年生のおいしそうな「ケーキ」は、『 さんにプレゼントしたい』『誰かと一緒に食べたい』という思いで、一生懸命制作した子どもたちの姿が想像され、ほのぼのとした気持ちになりました。いろいろな場面でどんな「表現」をしてくれるのか、これからもとても楽しみです。また、9 年生の「合唱」には誰も心を打たれました。男女の違いがはっきり表れ、一人一人の役割も明確になっている年代だからこそ、その協力や調和による表現が聞いている人に感動を与えるのでしょう。

さて、各学年の子どもたちがどのように取り組んだのか、ご紹介いたします。

### 「全力投球 完全燃焼」

9 年学年主任 巻山 香

今年の 9 年生は、すべての行事がインフルエンザとの闘いになるようです。文化祭の直前から、急激に各クラスにインフルエンザが広まり、その他の体調不良者も急増し、当日は半数近くの欠席者が出た 4 組を筆頭に、全員揃ったクラスはありませんでした。もう少し時間が経って振り返れば、きっと記憶に残る最後の文化祭だったと言えるのですが、今は全員で参加できなかったことが残念でなりません。

美術の模写や、修学旅行の卒論など、個性豊かな 9 年生の作品を、多くの人に見ていただけたこと。気持ちが一つにまとまったり、てんでばらばらだったり、いろいろあった練習を経て、各クラスとも当日の合唱が一番上手にまとまっていたこと。毎日の積み重ねが行事の成功につながることを改めて感じた今年の文化祭でした。9 年生は 11 月から受験に向けて一直線にがんばります。

### 「心をひとつに」

6 組学年主任 吉田 達

今年の 6 組の合奏は、日野学園になってから初めて 3 学年が揃った発表になりました。人数が増え、音色をあわせるのに時間がかかるため、1 学期から準備を始めました。最初は課題が仕上がらなかつたり、7 年生が初めての舞台発表のためそわそわする場面が見受けられましたが、木琴鉄琴のパート担当者は休み時間に繰り返し練習したり、キーボードのパート練習を音楽の時間に何度も練習したり、9 年生の集中して練習する演奏や態度を見て感じたりすることで、一体感が生まれとても美しいハーモニーに仕上がりました。

また、学年合唱や交流合唱では、学年の先生方や交流委員の先生方のご協力の中、大勢の仲間の中で一緒に楽しく歌う喜びを体全体で表現しながら大きな声で取り組んでいました。都陸上大会が一週間前に行われたばかりでしたが、一生懸命に頑張りました。

## 「集中と団結」

8年学年主任 加藤 伸作  
インフルエンザによる学級閉鎖の影響で、出展作品の完成に遅れが出たり、展示準備を2クラスだけで行うことになったりと臨機応変の対応が求められた今回の文化祭でした。しかし、生徒たちの熱意と頑張りにより、遅れていたクラスも立派な合唱を披露してくれました。学年合唱の「時の旅人」も最後の1週間で仕上げました。今回の合唱コンクールでは、集中することの大切さとみんなで団結することの素晴らしさを学ぶことができたものと思います。舞台発表では、国語と音楽のステップ選択の生徒が、生き生きとした劇と気持ちのこもった歌声を披露してくれました。演劇部や吹奏楽部の発表でも活動の中核となって活躍し、頼もしく感じました。来年は、9年生としてさらに成長した姿を見せてくれることを切望しています。

## 「初めての合唱コンクール」

7年学年主任 橋爪 美奈子  
7年生は、初めての合唱コンクールに向けて、「心は1つ」を合言葉に、朝練・放課後練を頑張っています。市民科の授業では、同じフロアの5年生の前で学年合唱「青春の1ページ」を披露しました。130人の心を込めたハーモニーを、後輩たちに届けとばかりに歌い上げ、心地良いひと時でした。

4階のフロアでは、教科の展示とともに懐かしい7月の6・7年移動教室の思い出の作品（赤べこ・流紋焼・慶山焼）とともに、フォトフレームの放映も行いました。



## 「これからも、さらに」

5年学年主任 山田 豪  
5年生、文化祭も頑張りました。5,6年合唱は「旅立ちの時」。表現豊かに歌う姿は5年生の良さがにじみ出ていました。合奏は「踊る大捜査線メドレー」。たくさんの拍手をもらった経験は大きな財産になることと思います。学年展示は家庭科「ランチョンマット」。初めてのミシン縫いでしたが試行錯誤しながら作り上げました。「社会科鎌倉新聞」。楽しい思い出と、計画を立てる大変さを新聞にまとめました。「来年の遠足はリーダーとして引っ張っていく。」と自信もついたようです。市民科の「座右の銘」。行動を支える言葉を見つけました。言葉の力の大きさをふまえ“有言実行”責任をもって行動していきます。展示でも放映した「林間学園の映像」と比べると顔つきが大人になってきた5年生。文化祭でもいろいろな表情を見せてくれました。残り半年更なる成長を遂げるべく学習していきます。

## 「ハーモニー」

6年学年主任 井口 明  
5年生とともに取り組んだ、文化祭の合唱と合奏。とくに、合奏曲『踊る大捜査線メドレー』は、夏休み前から練習を始め、夏休み中にも取り組みました。合唱曲『旅立ちの時』も、音楽の大石先生の熱い指導にこたえ、昨年度の経験を生かして5年生をリードしていました。「さすが6年生」と思わせるハーモニーに、安心していました。ところが、本番を翌日に控えた金曜日。1年生が演奏を聞きに来てくれました。すると、何か様子がおかしい…。朝一番とはいえ、いつもの声が出ていない！どうした？6年生！明日の本番は大丈夫か？と心配したのですが、「1年生が見ていたので緊張した…」とのことでした。迎えた本番は、満足のいく出来でした。展示部門も含め、ひとつの「作品」を作り上げていくことの大変さ、楽しさを味わうことが出来たと思います。この経験を生かし、今後の様々な取り組みを充実したものにしていけるようにがんばりたいと思います。

## 「全体合唱とクラス合唱」

副校長 齋藤 道

先月末に、学習成果発表会(文化祭)が行われました。私は日野学園の文化祭は初めてだったので、特に合唱コンクールを楽しみにしていました。また7年生以上では学年合唱と、クラス合唱の2曲に取り組みということで、各学年とても真剣に練習している姿が印象的でした。

ところで合唱コンクールでは、なぜ全体合唱とクラス合唱と2曲歌うのでしょうか？ 全体合唱は、フィギアスケートに例えれば規定演技と言えるでしょう。作曲者の意図した通りに歌うことが求められます。自分の都合や得意不得意とは関係なく、楽譜に指定されたとおり正確に、周りの仲間と心を合わせて歌うことに意味があるのです。

しかしこの一曲だけではきゅうくつに感じる人がいるかもしれません。でも安心してください。そのためのクラス合唱(自由曲)なのです。こちらはフィギアスケートに例えれば自由演技です。クラスで大いに工夫して、誰にもまねのできない、自分たちだけの個性あふれる合唱を作り上げていくのです。

私はこの合唱の取り組みは、これからの人生で必要な2つの力を育てているように感じています。ひとつは組織の一員として、わがままを捨てて組織のために取り組む力です。会社でも役所でも、「組織」としての目的を達成するためには、絶対に必要な力です。もうひとつは自分の人生を自分でデザインして生きていく力です。こちらも一度きりの人生を、自分らしく生き抜くためには無くてはならない力です。

この2つの力は、人間が社会の中で生きがいを感じながら成長していくためには、どちらも必要な力なので、バランスよく身につけておくことが大切です。今回の合唱コンクールを通して、実は子どもたちはこんな力を身につけているのです。



### 11月行事予定

月	火	水	木	金	土	日
						1
2 常任委員会	3 文化の日	4 校内研究会	5 学習確認テスト 8・9年 歯科検診 1・3・5年	6 代休5～9年 ふれあい給食 3年	7	8 校庭開放
9 進路相談9年 ～16日まで	10 歯科指導 7年	11 特別時程	12 歯科検診 2・4・6年	13 校外学習 6組	14 地域清掃	15
16 留学生の話を 聞く会8年	17 茶道教室 7年	18 職員連絡会	19 就学時 健康診断	20	21 土曜登校日 学校防災訓練 家庭教育学級 CAP	22
23 勤労感謝の 日	24 期末考査 5～9年	25 期末考査 5～9年	26 午前授業 5～9年	27 避難訓練	28	29 校庭開放 午後のみ
30						